

問1 1990年代半ばから2010年代にかけて、日本企業の海外生産比率は約10%から約25%へと大きく上昇しました。このように、日本の製造業が生産拠点を海外へ移転させることで、国内の工場が閉鎖され、関連する産業の衰退や雇用の減少を招く現象を何といいますか。 (2021年 奈良公立入試 類似)

1. 産業の空洞化 2. 産業の高度化 3. 地産地消の拡大 4. 経済のグローバル化の停滞

問2 瀬戸内工業地域の沿岸部では、かつての塩田跡地や埋立地を利用して、関連する複数の工場がパイプラインなどで結ばれ、効率的に生産を行う仕組みが作られました。このような生産拠点の形態を何と呼びますか。 (2022年 三重公立入試 類似)

1. 石油化学コンビナート 2. 高度経済成長センター 3. 工業団地 4. ハイテクパーク

問3 日本の農業産出額の内訳において、米の割合が5割を超えている地域の特徴として最も適切なものはどれですか。この地域は日本海側に位置し、冬の気候条件が農業に大きな影響を与えています。 (2026年 北海道公立入試 類似)

1. 雪の多い気候条件から、夏に米のみを作る単作が中心となっている北陸地方 2. 広大な土地を活かして、大型機械による大規模な稲作を行う北海道 3. 大消費地に近く、米だけでなく野菜や畜産をバランスよく組み合わせた関東地方 4. 温暖な気候を利用して、米の収穫後に裏作を行う二毛作が盛んな九州地方

問4 農業産出額が全国上位である茨城県は、総額約4409億円のうち野菜が36.5%、畜産が30.4%を占めています。一方、長野県では果実と野菜が産出額の柱となっています。このように、都道府県によって生産される農作物の種類や割合が異なる要因について、地形や気候、都市との距離に触れた説明として最も適切なものはどれですか。 (2026年 茨城公立入試 類似)

1. 茨城県は首都圏という大消費地に近いため、輸送コストを抑えて新鮮な野菜を届ける近郊農業が発達し、長野県は冷涼な高冷地などの自然環境を活かした生産を行っているから。 2. 茨城県は広大な平野部を活かした大規模な機械化による稲作に特化しており、長野県は山間部の急斜面をすべて果樹園として利用することで産出額を高めているから。 3. 茨城県は温暖な気候を利用した二毛作により米の生産割合が全国で最も高くなっており、長野県は都市から遠いため保存のきく果実の生産のみに集中しているから。 4. 茨城県は冬の積雪が多いため野菜の施設園芸が行われ、長野県は降水量が非常に多いため水田単作地帯として米の産出額が突出しているから。

問5 日本の農業における土地利用について、ある地域の耕地面積構成比を全国平均と比較したところ、田の割合が極めて低く、代わりに果樹園や畑の割合が高いことが分かりました。このように地域によって耕地の構成に大きな差異が生じる理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2025年 栃木公立入試 類似)

1. 大規模な平野が広がっており、大型機械を導入して果樹の集約的な生産を行う必要があるため。 2. 傾斜地が多く水はけが良いなど、その地域の地形や気候が特定の作物の栽培に適しているため。 3. 都市部に近く地価が高いため、面積あたりの収益が低い田を減らし、工業用地に転用したため。 4. 冷涼な気候の影響で稲の生育が困難であり、一年を通じて降水量が極めて少ない乾燥帯に属するため。

問6 携帯電話の小型電池などに使われるコバルトやリチウムのように、地球上の埋蔵量が少なかったり、技術的・経済的な理由で抽出が難しかったりする金属の総称として正しいものを選択してください。 (2020年 和歌山公立入試 類似)

1. 貴金属 2. ベースメタル 3. 希少金属（レアメタル） 4. 重金属

問7 日本の統計において生乳の生産量が全国で最も多い北海道では、生産された乳をそのまま出荷するだけでなく、バターやチーズなどの加工品にする割合が高いという特徴があります。その理由として最も適切なものはどれですか。 (2023年 鹿児島県公立入試 類似)

1. 大消費地から遠いため、加工して保存性を高めるとともに輸送しやすくする必要があるから 2. 北海道の気候では冬に生乳が凍結してしまうため、あらかじめ加工しておく必要があるから 3. 乳牛の飼育頭数が多すぎるため、生乳のままでは市場価格が暴落してしまうから 4. 近郊農業の一種として、新鮮な状態ですぐに消費者に届けることが困難だから

問8 東北地方の太平洋沿岸や千葉県の銚子付近には、水揚げ量の多い主要な漁港が集中しています。これらの地域で漁業が盛んである自然環境上の理由について述べた文として、最も適切なものを選択してください。 (2016年 愛媛公立入試 類似)

1. 暖流の日本海流（黒潮）と寒流の千島海流（親潮）がぶつかる「潮目（潮境）」があり、好漁場となっているため。 2. 広大な大陸棚が広がり、一年中波が穏やかな内海であるため、大規模な養殖業が発展しやすい環境にあるため。 3. 季節風の影響を全く受けない複雑な海岸線を持っており、大型の漁船が安全に停泊できる天然の良港が多いため。 4. 水深が非常に深い海溝が沿岸近くまで迫っており、深海に生息する希少な魚介類を効率よく漁獲できるため。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 産業の空洞化	円高への対応や労働力の確保、生産コストの削減などを目的として、日本の製造業が工場などの生産拠点を海外に移転させた結果、国内の製造業が衰退してしまう現象を指します。1995年頃には約10%であった海外生産比率が、2015年には約25%に達するなど、日本の産業構造における大きな課題となっています。
問2	答え 1 石油化学コンビナート	瀬戸内海沿岸には大規模な工場を建てる平地が少なかったため、江戸時代から続いた塩田の跡地などが再開発されました。原油を精製する工場とその誘導品を加工する工場が密接に連携する石油化学コンビナートが形成されたことで、原材料の輸送コストを抑えた効率的な生産が可能になっています。
問3	答え 1 雪の多い気候条件から、夏に米のみを作る単作が中心となっている北陸地方	北陸地方は冬に積雪が多く、耕地が雪に覆われる期間が長いいため、古くから夏の間だけに米を作る「米単作地帯」として発展してきました。そのため、農業産出額全体に占める米の割合が他の地域に比べて際立って高い（5割超）のが大きな特徴です。一方、北海道は米よりも畜産や畑作の割合が高く、関東地方は近郊農業の影響で野菜の割合が高くなっています。
問4	答え 1 茨城県は首都圏という大消費地に近いため、輸送コストを抑えて新鮮な野菜を届ける近郊農業が発達し、長野県は冷涼な高冷地などの自然環境を活かした生産を行っているから。	農業産出額の内訳は、その土地の自然的条件（気候・地形）と社会的条件（消費地との距離）によって決まります。茨城県は関東平野の広大な土地と首都圏に近い利点を活かして野菜や畜産を組み合わせた経営を行っています。これに対し、長野県は標高の高い地域の冷涼な気候を活かした野菜栽培や、傾斜地等を利用した果樹栽培が盛んです。石川県のような北陸地方では、冬の積雪と広大な平野という条件から米の割合が高くなる傾向があります。
問5	答え 2 傾斜地が多く水はけが良いなど、その地域の地形や気候が特定の作物の栽培に適しているため。	農業における土地利用は、その場所の自然環境に強く依存します。平坦で水が得やすい場所では「田」としての利用が進みますが、水はけの良い傾斜地や台地では、果樹園や畑としての利用が優先されます。小田原市のような地域で果樹園の割合が高いのは、こうした地形的・気候的背景に基づいた合理的な土地利用が行われているためです。
問6	答え 3 希少金属（レアメタル）	現代のハイテク産業に不可欠なこれらの金属は、希少であることからレアメタルと呼ばれます。埋蔵量が少なくだけでなく、産出地が特定の国に偏っていることが多いため、安定した供給を確保することが国際的な課題となっています。
問7	答え 1 大消費地から遠いため、加工して保存性を高めるとともに輸送しやすくする必要があるから	生乳は鮮度の低下が早く、液体であるため輸送コストもかかります。北海道は関東や関西といった大きな消費地から離れているため、水分を抜いて保存性を高めたバターやチーズに加工することで、長距離の輸送を可能にし、付加価値を高めています。一方、都市近郊の酪農地域では、新鮮さが求められる飲用牛乳としての出荷が多くなります。
問8	答え 1 暖流の日本海流（黒潮）と寒流の千島海流（親潮）がぶつかる「潮目（潮境）」があり、好漁場となっているため。	東北地方から関東地方にかけての太平洋沖は、南からの暖流（黒潮）と北からの寒流（親潮）が交わる「潮目」と呼ばれます。ここにはプランクトンが豊富に発生するため、暖流系と寒流系両方の魚が集まる世界的な好漁場となっています。この地理的条件が、沿岸部にある銚子港や石巻港、八戸港などの水揚げ量を支える大きな要因となっています。